

## 第2問のポイント

難易度

**B**

配点 **20点**

目標点 **16点**



商品売買の問題です。資料の読み取りが非常に難しい問題です。収益の計上基準や売上原価対立法などの論点が出題されています。資料を冷静に読み、簡単に解答できる箇所から解いていきましょう。

## 解答

●数字につき配点

問1

### 売掛金

7

x7年	摘要	借方	x7年	摘要	貸方
4 1	前期繰越	3,400,000	4 20	諸口	4,320,000
	15 売上	4,320,000	29	電子記録債権	960,000 ②
② 24	売上	8,400,000	30	次月繰越	10,840,000 ②
		16,120,000			16,120,000

### 商品

9

x7年	摘要	借方	x7年	摘要	貸方
4 1	前期繰越	3,300,000	4 11	買掛金	486,000 ②
② 10	諸口	2,124,000	15	売上原価	2,184,000
② 18	受取手形	768,000	24	売上原価	4,194,000 ②
22	諸口	2,808,000	30	棚卸減耗損	138,000
			〃	商品評価損	114,000
			〃	次月繰越	1,884,000 ②
		9,000,000			9,000,000

問2

① 当月の売上高	② 12,696,000 円
② 当月の売上原価	② 6,630,000 円

# 解説

## 1. 商品売買の原価の整理

X商品とY商品の原価ボックスを作成し、原価を把握します。

### X 商品

前期繰越	売上原価
1日 <u>200個 @9,000円</u>	15日 <u>200個 @9,000円</u> <u>40個 @9,600円</u>
当月仕入	
10日 <u>120個 @9,600円</u>	24日 <u>80個 @9,600円</u>
18日 <u>80個 @9,600円</u>	<u>80個 @9,600円</u>
22日 <u>200個 @9,900円</u>	<u>40個 @9,900円</u>
	次月繰越
	30日 <u>160個 @9,900円</u>

### Y 商品

前期繰越	売上原価
1日 <u>200個 @7,500円</u>	24日 <u>200個 @7,500円</u> <u>60個 @8,100円</u> <u>40個 @6,900円</u>
当月仕入	
10日 <u>120個 @8,100円</u>	
11日 <u>△60個 @8,100円</u>	
22日 <u>120個 @6,900円</u>	
	次月繰越
	30日 <u>80個 @6,900円</u>

### POINT



●資料を整理する際に、波線などを引いておくと、ケアレスミスの防止につながります。

## 2. 取引の仕訳

### (1) 4月1日：前期繰越

商品勘定（前期繰越）：@9,000円×200個 + @7,500円×200個 = 3,300,000円  
X商品 Y商品

(2) 4月10日：仕入①

販売のつど売上原価勘定に振り替える方法を採用している場合、商品を仕入れたときは原価で商品の増加として処理します。

(商	品)	2,124,000	*1	(現	金)	720,000		
				(買	掛	金)	1,404,000	*2

$$*1 \quad \frac{\textcircled{\text{9,600円}} \times 120\text{個}}{\text{X商品}} + \frac{\textcircled{\text{8,100円}} \times 120\text{個}}{\text{Y商品}} = 2,124,000\text{円}$$

\*2 貸借差額

(3) 4月11日：仕入返品

仕入れた商品を返品したときは、仕入を取り消すために商品の減少として処理します。

(買	掛	金)	486,000	*	(商	品)	486,000
----	---	----	---------	---	----	----	---------

$$* \quad \textcircled{\text{8,100円}} \times 60\text{個} = 486,000\text{円}$$

(4) 4月15日：売上① (出荷日)

出荷基準を採用しているため、出荷日(発送日)に売上を計上します。なお、販売のつど売上原価勘定に振り替える方法を採用している場合、売上時に原価を商品から売上原価へ振り替えます。

(売	掛	金)	4,320,000	*1	(売	上)	4,320,000	
(売	上	原	価)	2,184,000	(商	品)	2,184,000	*2

$$*1 \quad \textcircled{\text{18,000円}} \times 240\text{個} = 4,320,000\text{円}$$

$$*2 \quad \frac{\textcircled{\text{9,000円}} \times 200\text{個}}{\text{X商品・前期繰越分}} + \frac{\textcircled{\text{9,600円}} \times 40\text{個}}{\text{X商品・4月10日仕入分}} = 2,184,000\text{円}$$

(5) 4月16日：売上①の検収

売上収益を認識する基準として出荷基準を採用しているため、検収完了の報告を受けた日にはなんの処理もしません。

(6) 4月18日：仕入②

商品を仕入れ、代金として所持していた他社振出しの約束手形を裏書譲渡しているため、受取手形の減少として処理します。

(商	品)	768,000	*	(受	取	手	形)	768,000
----	----	---------	---	----	---	---	----	---------

$$* \quad \textcircled{\text{9,600円}} \times 80\text{個} = 768,000\text{円}$$

### (7) 4月20日：売掛金の回収（売上割引）

売掛金を回収するさいに割引を行ったときは、売上割引で処理します。

(売上割引)	8,640 *1	(売掛金)	4,320,000
(現金)	4,311,360 *2		

\* 1 4,320,000円×0.2%=8,640円

\* 2 貸借差額

#### POINT



● 売上割引は、掛け代金の早期決済による営業外費用なので、売上高や売上原価には影響のない費用である点に注意しましょう。

### (8) 4月22日：仕入③

(商品)	2,808,000 *1	(普通預金)	1,080,000
		(買掛金)	1,728,000 *2

\* 1  $\underbrace{@9,900円 \times 200個}_{X商品} + \underbrace{@6,900円 \times 120個}_{Y商品} = 2,808,000円$

\* 2 貸借差額

### (9) 4月24日：売上②（出荷日）

(売掛金)	8,400,000 *1	(売上)	8,400,000
(売上原価)	4,194,000	(商品)	4,194,000 *2

\* 1  $\underbrace{@19,500円 \times 200個}_{X商品} + \underbrace{@15,000円 \times 300個}_{Y商品} = 8,400,000円$

\* 2 X商品： $\underbrace{@9,600円 \times 80個}_{4月10日仕入分} + \underbrace{@9,600円 \times 80個}_{4月18日仕入分} + \underbrace{@9,900円 \times 40個}_{4月22日仕入分}$   
= 1,932,000円

Y商品： $\underbrace{@7,500円 \times 200個}_{前期繰越分} + \underbrace{@8,100円 \times 60個}_{4月10日仕入分} + \underbrace{@6,900円 \times 40個}_{4月22日仕入分}$   
= 2,262,000円

合計：1,932,000円 + 2,262,000円 = 4,194,000円

### (10) 4月25日：売上②の検収

売上収益を認識する基準として出荷基準を採用しているため、検収完了の報告を受けた日にはなんの処理もしません。

(11) 4月28日：売上割戻

売上割戻を行った際には、売上を取り消します。なお、販売のつど売上原価勘定に振り替える方法では、商品を販売した際に売上原価を計上していますが、売上割戻は売価部分の修正で原価部分には影響しないため売上原価の取り消しはしません。

(売	上)	24,000	(現	金)	24,000
----	----	--------	----	----	--------

(12) 4月29日：売掛金の回収（電子記録債権の発生）

売掛金を回収した場合、売掛金を減らします。また、電子記録債権の発生記録を行った場合、電子記録債権の増加として処理します。

(電 子 記 録 債 権)	960,000	(売 掛 金)	960,000
---------------	---------	---------	---------

(13) 4月30日：月次決算（商品の評価）

販売のつど売上原価勘定に振り替える方法では、決算において売上原価を算定する決算整理仕訳は不要となります。そのため、期末商品の評価のみ行います。

① X商品

商品評価損を算定します。なお、帳簿棚卸数量と実地棚卸数量が一致しているため、棚卸減耗は生じていません。

(商 品 評 価 損)	96,000 *	(商 品)	96,000
(売 上 原 価)	96,000	(商 品 評 価 損)	96,000

期末商品帳簿棚卸高  
@9,900円×160個=1,584,000円

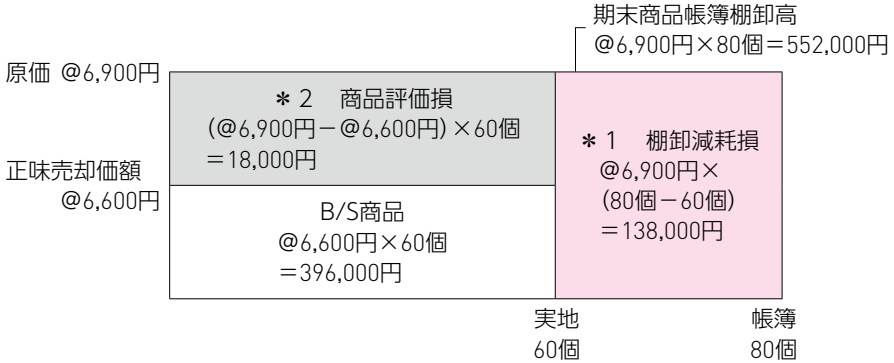
原価 @9,900円	* 商品評価損 (@9,900円 - @9,300円) × 160個 = 96,000円
正味売却価額 @9,300円	B/S商品 @9,300円 × 160個 = 1,488,000円

帳簿＝実地  
160個

② Y商品

棚卸減耗損と商品評価損を算定します。

(棚卸減耗損)	138,000 *1	(商品)	138,000
(商品評価損)	18,000 *2	(商品)	18,000
(売上原価)	138,000	(棚卸減耗損)	138,000
(売上原価)	18,000	(商品評価損)	18,000



3. 売上高と売上原価

(1) 売上高

$$\frac{4,320,000\text{円}}{4月15日} + \frac{8,400,000\text{円}}{4月24日} - \frac{24,000\text{円}}{4月28日} = 12,696,000\text{円}$$

(2) 売上原価

$$\frac{2,184,000\text{円}}{4月15日} + \frac{4,194,000\text{円}}{4月24日} + \frac{138,000\text{円}}{4月30日} + \frac{114,000\text{円}}{4月30日} = 6,630,000\text{円}$$

LECTURE

売上原価対立法



● 売上原価対立法とは、商品を仕入れたときに商品の増加で処理（原価で記入）し、商品を売上げたときに、売価で売上を計上するとともに、その商品の原価を商品から売上原価に振り替えます。